

「事業名：リスク・コミュニケーション工学を活用した復興学による浪江町創成 Ⅲ
～イノベーション・コースト構想の実現に向けて～」
2020年度事業の概要

東京工業大学 連携市町村：浪江町
現地拠点：双葉郡浪江町役場内

事業のポイント

東京工業大学「復興学」の3年度にわたる研究・教育成果のとりまとめとともに更なる深化と国内外への発信を行い、一部地域の避難指示解除から約3年経過した浪江町の新たな地域ニーズを発掘・整理し、研究者ネットワークの拡充、小中学生・大学生等の教育プログラムの実施、産業振興の芽の創成・開花を目指した活動を行う。

2020年度の活動内容

- ・ リスク・コミュニケーション工学の研究の深化
- ・ リスク・コミュニケーション工学、除染科学、ロボット計測工学を融合して福島復興学として切出すことを検討
- ・ 東京工業大学のキャンパスおよびJAEA櫛葉遠隔技術開発センターにおいて廃炉研究の継続的实施
- ・ 福島大学の研究者と連携してMCF(Magnetic Compound Fluid)を用いた新しいロボット用センサの開発研究と実用化検討
- ・ 前年度の調査研究による成果をもとに、リスク・コミュニケーション工学の除染科学として地域の環境回復手法の調査・検討
- ・ 小中学生の教育活動：理科教室、ロボット教室、文化教室の実施
- ・ 大学生(大学院生含む)の教育活動：リスク・コミュニケーション工学実習(超音波探傷)の実施
- ・ 大学生(大学院生含む)の教育活動：リスク・コミュニケーション工学実習(ロボット計測)の実施
- ・ 他大学と浪江町にてリスク・コミュニケーション工学の知の集積を図る活動の継続
- ・ 前年度に可能性を調査した産官学民連携事業の実現性について検討
- ・ 研究発表会の実施
- ・ 大学等の研究者間連携ネットワークの構築の促進



リスク・コミュニケーション工学実習(ロボット計測)※



講演会・研究会等の実施※



なみえ創成小学校・中学校でのロボット教室※
※上記、写真はすべて前年度の実施例

取り組みによって得られる成果

2020年度は、前年度の取り組みで得た知見を活かして、安全安心で活力ある暮らしの実現に向けた取り組みと現地教育プログラム、ロボット計測工学による廃炉研究の浪江町での知の集積、将来の環境回復へ向けた取組、また、リスク・コミュニケーション工学の食の風評被害への知の波及効果についても検討する。さらには、大学の知の社会実装の計画と産官学連携事業の社会実験に関して事業を推進する。